

独立系 IR コンサルティング会社として数多くの企業のサポートをしているフィナンテックは、全米 IR 協議会 (NIRI) に加盟する唯一の日本企業です。企業において IR 活動を行う皆様や証券業界関係者の皆様に対して、常に最新の情報をご提供してまいります。

## 1. IR レポート「決算短信の様式変更について」

東京証券取引所から決算短信の新しい様式が発表されました。平成 19 年 3 月期の決算からこの様式に切り替わることになります。関係の資料は東証の以下のサイトからダウンロードできます。

[http://www.tse.or.jp/news/200608/060829\\_a.html](http://www.tse.or.jp/news/200608/060829_a.html)

この新しい様式の決定にあたっては、機関投資家・個人投資家・発行会社それぞれへのアンケートを行い、その意見をかなり反映させたようです。このアンケート結果も 3 月に東証から発表されています。新しい短信の様式にはこれらの意見がかなり反映されていますが、今回盛り込まれなかった項目については、各企業が決算説明会資料やホームページでの任意開示の項目として検討していくべきものと考えます。機関投資家の主な意見として上げられているものには、以下のようなものがあります（カッコ内は筆者コメント）。

- ・ 短信の開示時期について。決算短信は速報性が極めて重視される。四半期開示の法定化後は回数が増えるので、迅速性がより重視される。開示時期は期末の翌月末までが望ましい。遅くとも 1 ヶ月半以内。開示が遅いのは、システム不備か意識の問題と捉える（= 会社への評価の低下に繋がる？）。同業種の発表は時期が離れすぎず、かつ重ならないことが望ましい（発行会社の努力だけでなく、取引所が業種ごとに発表日の枠を決めて申込制にするなどの対応があれば・・・）。
- ・ 短信の有用性について。短信はハンドリングに優位性があり、有価証券報告書より使用頻度は圧倒的に大きい。
- ・ 短信に求めるものについて。短信では業績関連の情報が重要。当期業績に関連のない定性情報や財務諸表注記は有価証券報告書でもいい。設備投資と減価償却費の記載があると良い。セグメント情報は必須。ついで重要なのは税効果会計と退職給付。リース取引は会社のリースの利用頻度次第。注記事項については重要性次第で、有価証券報告書などに回してもよい。ただし結果的に重要な情報を後回しにした場合、結果責任を問われるべき。
- ・ 個別（単体）情報について。個別情報のうち、配当情報は重要。それ以外はあまり見ない。ただし配当余力の確認のため B/S は必要。持株会社など会社形態や連単倍率などの条件を決めて、該当する場合のみ個別を開示することでいいのではないか。
- ・ 定性情報について。財務諸表作成の基本となる重要な事項、重要な会計方針、企業集団の状況等は変化があった箇所のみ開示でよい（反対に網羅性を求める意見もあり）。数値だけでなく、短信の中で会社・経営者の考え方を示す定性的な説明も必要。定性説明は、日本経済の動向うんぬんは止めて、経営者の生の声を。（経営方針、利益配分、投資単位の引下げ等の情報は、重要・必要という意見と必ずしも重要でない、が両存）。
- ・ 決算短信に加えて欲しい項目について。アナリスト説明会で必ず聞かれるような項目。決算説明会資料一式の添付。セグメント情報の細分化。セグメント別粗利益の開示。セグメント別の翌期予想。設備投資、減価償却費、研究開発費の実績と予想。連結ベースでの利益配分の考え方。販売費および一般管理費の細目表示。営業外損益と特別損益の詳細情報。主要な連結子会社や持分法対象会社への出資比率の変更の開示。ヒストリカルなデータの提供（過去 5 期の推移、というイメージでしょう）。
- ・ 予想に関する項目について。営業利益の開示。業績予想の前提条件（為替・金利・原油価格・その他）。キャッシュフロー予想。

- ・ 業績予想にレンジによる開示について。レンジでなく特定の値での開示が望ましい。特定値+レンジで、上限と下限の前提もあるなら良い。上限と下限の極端な乖離は良くない。
- ・ 連結短信の1枚目に欲しい情報について。配当情報。発行済株式数と自己株式数、その差の株数。予想EPSは欄外でなくて売上高や経常利益などと同じく、枠内で表示。
- ・ (筆者追加) 次回発表(四半期・中間・年度のいずれか)の予定日。

(株)フィナンテック IRコンサルタント 深井浩史

## 2. IRレポート「当社主催IRセミナーから」

当社は10月5日に「企業価値創造に向けた戦略的IRについて」と題した上場企業向けのセミナーを開催しました。このセミナーにおいて当社代表取締役の甲斐昌樹、およびグループのフィナンテック・コミュニケーションズ代表取締役の西堀敬が講演いたしました。

甲斐は、最近の株式市場の動向と、それを踏まえた戦略的IRの実践及び投資家別のIR活動について講演を行ないました。最近の株式市場の動向については、ライブドアショック以降、個人投資家の現物・信用決済の売りが新興市場の下落を促進させてきた一方、外国人投資家は業績好調な企業に対し継続的に投資を行ってきたこと、また個人投資家の市場参加による流動性向上がヘッジファンドの投資対象を大型株から中小型株まで拡大させてきたことを説明いたしました。次に、投資家に将来の企業成長を理解してもらう為のコーポレートストーリーの重要性と、フェアバリューを理解してもらう為のコーポレートストーリーに基づいた中期事業計画策定の重要性を説明し、更に企業価値拡大のためには、投資家に応じてFace to Faceマーケティングからインターネットを活用したマスマーケティングまで駆使し、的確且つ効率的なIR活動が必要であることを説明いたしました。

西堀は、最近のIPO市場の動向について説明を行ないました。例年の傾向として、新規上場企業が少ない4月~6月の時期は初値騰落率が高く、新規上場企業が多い9月~12月の時期は初値騰落率が低いこと、また資金調達額が多いほど初値騰落率は低くなる傾向にあるが、今年はその傾向がより顕著で騰落率の水準自体も低下傾向にあることを説明いたしました。

尚、このセミナーの資料をご希望される方は、当社へお電話かe-mailにてお問い合わせ下さい。

(担当：西方/村井純子)

## 3. フィナンテックからのお知らせ

### ホームページのリニューアル

当社のホームページが新しくオープンしました。ぜひ一度ご覧下さい。<http://www.finantec-net.com/>

### 株主判明調査サービスについて

当社は、米国ニューヨーク州ウォールストリートに本拠地を置く独立系総合株主情報会社 InvestorCom Inc (<http://www.investor-com.com>)との提携により、日本企業の皆様へ株主判明調査のサービスを開始いたしました。同社は、1990年の設立以来一貫して株主判明調査を中心としたサービスを提供してきました。現在、世界の上場企業100社以上にサービスを提供しています。単に編集したデータをお客様にお渡しするのではなく、さらに一歩踏み込んだ高度な情報解釈・分析をご提供させて頂いていることが、同社の強みです。

このサービスについては、当社へお電話かe-mailにてお問い合わせ下さい。(担当：福島)

### 当社の個人情報管理について

当社は本年4月にプライバシーマークの使用認定を取得しました。当社の個人情報保護方針は以下のアドレスに記載しております。<http://www.finantec-net.com/profile/privacy.html>

お問合せ：(株)フィナンテック e-mail [info@finantec-net.com](mailto:info@finantec-net.com) 電話 03-3560-5444 (代表) FAX03-3560-5445

過去のレビューは、<http://www.irstreet.com/j/index.jsp> に掲載しております。